

学校法人大谷学園
大阪大谷大学短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

大阪大谷大学短期大学部の概要

設置者	学校法人大谷学園
理事長名	左藤 恵
学長名	笠井 高芳
A L O	志水 正俊
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活創造学科		180
	合計	180

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大阪大谷大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 6 月 25 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、「報恩感謝」という建学の精神に基づき、平成 19 年には「自立」、「創造」、「慈愛」という三つのキーワードを定めて教育理念としている。

学科の教育課程は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しており、それぞれの授業の単位認定や学習評価は適切に行われている。また、資格取得への取り組みと実績も十分である。教育課程改善やファカルティ・ディベロップメント（FD）活動などへの組織的な取り組みは活発で、教育目標の達成への努力がみられる。

教員組織、校地・校舎、教室、図書館などの教育の実施体制は適切に整備され、機能している。また、施設設備の整備と管理は適切に行われており、防災管理・防犯対策・大学ネットワークの安全対策も十分で、省エネルギー・省資源対策も適切に行われている。

アドバイザー制度及びオフィスアワー制度、就職進路対策講座などが機能しており、学生の心身健康管理やカウンセリングの体制を整えて、学生支援を十分に行っている。

多くの教員が積極的に研究活動を行って、おおむね順調に成果をあげている。

また、地域の行政・教育機関や文化団体などとの交流、学生ボランティアの支援などの社会的活動を効果的に行っている。

管理運営は、理事長・学長のリーダーシップの下、教授会及び各種委員会の審議を経て適切に行われている。事務組織は併設四年制大学と一元化され、各種委員会に事務職員が参加して、教員との協調連携体制ができている。

学校法人及び短期大学の中期計画が策定され、予算の執行・管理、決算報告及び監査、財務情報公開は適切に行われている。短期大学部門の消費支出比率は年度を追って改善傾向にあり、今後は中期計画に基づき適正な財務運営が図られることになっている。また、改革・改善に向けて規程及び組織を整備し、自己点検・評価報告書を毎年発行するなど、システム構築への努力がみられる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 春季の「花まつり」と秋季の「報恩講」、校祖を記念する「了秀忌」、毎週の日常礼拝、教職員対象の宗教教育研修会などの各種行事において、講演などにより建学の精神の周知と理解を図っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- キャリアアップ科目として資格検定試験合格への対策を行うとともに、「キャリアアップ室」を設置し、資格検定試験の募集、対策講座の設置、当該短期大学における試験の実施、合格通知と不合格者へのケアなどを実施している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教育及び学生指導などの立案にかかわる各種委員会に担当事務職員が参加して教員と協調して業務を進め、全学的な行事に関する業務については、教職員が適切に役割分担を行った上で、全学的に取り組むという協調連携体制が確立されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 過去2回、九州大谷短期大学と相互評価を実施し、その結果から、建学の精神の具現化という具体的な課題を抽出し、改善・充実に結び付けた。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域V 学生支援

- 公募制推薦入試や指定校推薦入試などの合格者に対しても、附属高等学校からの指定校入試の合格者同様、入学事前教育を実施することが望まれる。

評価領域IX 財務

- 余裕資金はあるが、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「報恩感謝」という建学の精神に基づき、平成 19 年には「自立」、「創造」、「慈愛」という三つのキーワードを定めて、人としての本質的な能力や判断力を養い、時代に即応してその能力を発揮できる、創造的な人間の育成を教育理念としている。学科の教育目的及び領域（コース）ごとの教育目標は学生便覧に明記されており、年度初めのオリエンテーション期間中や授業を通じて学生への周知が図られている。また、教職員には学科会議・領域会議の場で周知されている。教育目的・教育目標の点検は自己点検・評価委員会で実施されており、各領域での会議、教務委員会及び運営委員会の議を経て教授会に諮られる。教育の改革・改善については理事会においても論議されており、日頃から教育目的・教育目標を実現し共有するための具体的な努力がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程には建学の精神・教育理念が反映され、その内容は、学科及び領域の教育目的・教育目標に基づき、教養教育及び専門教育として十分な要件を備えている。授業の単位認定と評価は適切に行われ、教育課程の改善に向けた組織的な対応がなされている。シラバス（授業計画書）には教科書、参考書、成績評価方法などが示され、その内容は授業の概要を示すに十分で理解しやすい表現になっている。FD 活動への組織的な取り組みは活発で、学生による定期的な授業評価の結果が授業改善に活用されており、専任及び兼任の授業担当者間での意思の疎通、協力・調整がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準に定める専任教員数を充足し、教員の採用・昇任は規程に従って行われている。また、教員は教育・研究・学生指導などの分野について意欲的に取り組んでいる。校地・校舎は、短期大学設置基準の基準面積を充足し、教育環境として適切に整備されている。情報処理演習室、LL 教室、学生自習室などについては、授業用の機器・備品などの整備及び教室の管理を専門の部署が連携を保ちながら対応しているため、良好に機能している。図書館の年間図書購入予算、蔵書数、職員数などもほぼ十分と考えられ、購入図書選定及び廃棄に関するシステムはおおむね良好に整備されている。図書館サービス体制も充実しており、図書館利用の更なる活性化に向けて努力している。なお、専任教員の年齢構成に偏りがみられるため、年齢構成のバランスに配慮することが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定の方法は適切で、単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員は学習評価を適切に行い、授業終了後の学生の満足度に配慮し授業改善を行っている。退学、休学、留年などの学生に対するケアも十分に行われている。また、在学生の資格取得に対する取り組みと実績も十分であり、編入学希望の学生に対してもそれぞれの専門領域の教員が指導に力を入れている。卒業生の就職先からの評価はおおむね良好であり、卒業生との交流や同窓会との連携も行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学希望者に対しては、各種入学案内及びウェブサイトにおいて当該短期大学及び入試関係の情報を提供し、入試広報課が受験生の問い合わせなどに適切に対応している。入学事前教育、入学後のオリエンテーションや新入生見学研修会などを実施し、学習や科目選択に関しては学年ごとに履修オリエンテーションを実施し、学習指導の体制としてアドバイザー制度及びオフィスアワー制度を設けている。学生食堂・書籍部・購買部・保健室・談話室などの福利厚生施設も十分に設けられている。保健室と学生相談室による学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制も整っている。就職活動支援のための施設設備を備え、きめ細かな就職情報の提供、就職進路対策講座の開催などの就職支援を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

ほぼ全教員が研究成果を著書、論文、学会発表などの形で公表し、社会的活動も積極的に行い、数人の教員は海外にも活動基盤を持っている。個別の研究及び各領域における卒業研究の指導に関する取り組みなどについては、『大阪大谷大学短期大学部紀要』、『卒業研究発表会』、『卒業記念イベント要旨集』、『卒業制作作品集』（食生活領域）、『卒業論文要旨集』（教養総合領域）など多彩な発表の機会を設けて、紀要を中心に研究成果を発表してい

る。教員研究費は妥当な額が支給され、研究用機器・備品・図書や研究を行うにふさわしい研究室などが整備され、研究時間が確保されており、研究活動の活性化のための条件整備が行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動についての位置付けは明確で、地域社会との密接な関係を重視し、地域における教育研究の拠点たるべく生涯学習機関としての充実を責務としている。また、地域社会の行政、教育機関、文化団体などとの交流活動を効果的に行っている。学生による活動としてはソフトボール教室や施設訪問などのサークル活動のほか、学生個人レベルでのボランティア活動も行われており、短期大学自身も学生の地域活動、ボランティア活動は極めて重要であると評価し、クラスアドバイザーが相談窓口となって積極的な参加が実現するよう支援している。国際交流に関しては、長期留学以外に短期語学研修や異文化理解を深める短期留学を実施するなど、留学生の派遣に意欲的であり、教員が過去3ヶ年において国際会議に参加した件数は8件である。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は理事会、評議員会及び短期大学との良好な信頼関係の下でリーダーシップを発揮し、寄附行為の定めに基づいて学校法人の管理運営を行っている。教学面については、理事長の下で学長が建学の精神・教育理念に基づいた教学の推進にリーダーシップを発揮している。また、教授会及び各種委員会は、教育研究の審議機関として学則などの規定に基づき適切に運営されている。

事務組織は、併設四年制大学と一元化された組織で、諸規程の定めに基づいて適切な運営と事務処理が行われ、事務職員の能力開発や事務能力向上のための研修などの取り組みも行われている。人事管理は就業規則などに基づき適切に行われている。教育及び学生指導などの立案にかかる各種委員会に事務職員が参加し、教員と協調して業務を進めるような協調連携体制ができており、授業改善を支援する職員のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動が定期的に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人及び短期大学の中期計画が策定され、毎年度の事業計画と予算編成については、教学部門の意向を集約し、適切な時期に理事会で決定している。予算の執行・管理については、諸規程に基づき行われており、決算報告及び監事と公認会計士による監査、財務情報公開も適切に行われている。

学校法人全体の財政状況は、平成19年度末の貸借対照表概要では、支出超過で推移しているが、消費支出比率は平成19年度においては収入超過に改善されている。当該短期大学の収容定員充足率は良好で、短期大学部門の消費収支の状況は、年度を追って改善傾向にあるものの、やや支出超過の状況にある。今後は、中期計画に基づき、学校法人及び

短期大学の適正な財務運営が年次計画で図られることになっている。

必要な施設設備が整備され、管理規程を整備し、その管理が適切に行われている。また、防災管理・防犯対策・大学ネットワークの安全対策も十分にとられており、施設設備の維持管理が適切に行われ、省エネルギー・省資源対策についても冷暖房機器、照明、用水などの管理は適切に行われている。

評価領域X 改革・改善

改革・改善のために、自己点検・評価に関する規程を制定し、自己点検・評価委員会の下に自己点検・評価に関する実務委員会、第三者評価プロジェクトチームを組織し、教職員一丸となって各基準項目の点検を行うシステムと体制を構築している。自己点検・評価報告書の発行については平成10年度に始まり、平成14年度からは毎年発行している。また、自己点検・評価の結果を活用して、学生の多様な学習需要に対応できるよう学科の統合・改組を行い、さらに教育課程の改善、学生支援、キャリア開発など恒常的課題の改善に生かす方向性も出している。過去2回にわたり九州大谷短期大学との間で行った相互評価の結果を、建学の精神の具現化、宗教教育や行事などの充実に活用している。